

## 概要

農業排水による琵琶湖の汚染問題に着目し、琵琶湖から大量の水をくみ上げ、消費し、汚染してまた琵琶湖に流すという現在の用水利用から、農業排水を一度ため池に溜め、用水として再利用する用水利用へとシフトを図るプロジェクト。ため池の沈殿作用を用いることで、汚染濃度の低い上層部の水を河川へ流し、環境負担を減らす。また、水質汚濁の観点以外にも、ため池の共同管理を通して、田根地区の「結」という村民間のコミュニティの再建を行うという狙いがある。

これらの背景には、滋賀県長浜市田根地区が地元の第一次産業である林業と農業の衰退、またそれに伴う過疎化、少子高齢化といった日本の地方山村が有する社会問題を抱えるなか、地域特有の森林資源やコミュニティを健全なかたちで次世代に継承していこうとする思いが存在する。

## 介入

本プロジェクトでは、これまで、ため池が水質改善に果たす役割を調査することに終始しがちで、ため池が本当にコミュニティ再建を図るために機能するのかどうかということに関しては、リサーチ不足が否めなかった。そのため、今回私は、ため池と水路が本当に人が集まる様な「気持ちいい」空間なのかということ进行调查し、ため池・水路というものが人と人を結びつける「場」としての可能性があるのでどうかを検証した。



• KAMOIKE

SORT : NATURE / SMALL

カモが泳いでいることから水質はある程度きれいに保たれていると予測できる。授業や課題で疲れた学生にとってはよいリラックス場所であり、一人で読書するのも、友人と一緒に会話を楽しむのもよし。



• OMOTESANDOU

SORT : ARTIFICIAL / SMALL

流れている水は透明で一見きれいな様に思えるが実際は分からない。通りすがりの大人はあまり興味を示していないが、子供たちは水に触れたり、水路に入ったりとかなり関心を示している。



• YOYOGI PARK

SORT : NATURE / LARGE

オタマジャクシなどの生物がいることから一定の水質は保たれていると考えられる。水辺の芝生にはカップルや仕事終わりのサラリーマン、外国人グループなどが日光浴や読書をして楽しんでいる。



• YOKOHAMA

SORT : ARTIFICIAL / LARGE

水自体は透明で一見きれいそうに思われるが、底にはゴミらしき沈殿物が溜まっている。水路の周りのベンチには家族連れやカップルの姿が多く見られ、お弁当を食べたり読書をしたりとリラックスしている。



• EXPECTATIONS

現在、田根地区には西湖をはじめとする多くのため池が存在するが、これらは都会から訪れた人たちにとってはとても新鮮に感じられる。ため池は、現地の農家の人にとっては水質汚染を解消する一つの手だてとして役立つとともに、観光客や都会から来た滞在者にとっては憩いの場となりうる。ため池を単に農業のためのものとして捉えるのではなく、あらゆる人が集まるプラットフォームとして捉えることがこれからの田根には重要なのではないだろうか。